

## タイル張り工法技術資料

グラン舗石\_床張り工法

2026.4.8 Ver2.2

株式会社アイコットリョーフ

---

Tel: 0572-27-6161

〒507-0068 岐阜県多治見市大藪町1989番地の5



「グラン舗石・技術資料」は、大形で重厚なタイルを、さまざまな下地に対して必要な部材を用いて張り付ける工法をまとめたものです。

近年、タイルの生産技術は飛躍的に進化しており、外構で使用されていた厚物タイルが、300角を超える大形サイズで提供可能になっています。さらに、最新のデジタル加飾技術との融合により、天然石と見まがうほどの意匠表現が可能となり、外装デザインの幅を大きく広げました。

しかしながら、設計・施工に関しては、従来の景観・土木系の施工法が主であり、用途別に最適化された施工法が十分に整備されていないのが現状です。

本書は、「グラン舗石シリーズ」の特性に応じて、正しく設計・施工・使用していただき、施工後の品質を確保し、不具合の未然防止につなげることを目的としています。工事着手前に本書をご一読いただき、高品質で安全な外構環境の提供にお役立てください。

なお、本書はすべての建築・土木用途に対応した内容ではありません。ご採用にあたっては、本書に加え、『公共建築工事標準仕様書（建築工事編）』、『建築工事標準仕様書 JASS 7（メーソリー工事）』、『JASS 19（セラミックタイル張り工事）』等をご参照のうえ、ご関係者間で十分なご協議をお願いいたします。

危険や損害の表示区分：

表示内容に従わなかった場合に生じる危害や損害を次の表示で区分しています。



警告：取扱いを誤った場合に、死亡または重傷、障害を負う可能性がある場合の表示です。



指示：守るべき行動の表示です。誤った行動の場合は、物的損傷や重大な不具合の可能性のある場合の表示です。



禁止：行ってはいけない禁止内容の表示です。

1	設計・施工条件	4
	1.1. 用途概要	5
	1.2. 適用タイル	6
	1.3. 適用下地・適用工法	6
	1.4. 施工のポイント	7
	1.5. 石材との比較	7
	1.6. 禁止事項	8
2	構成部材	9
	2.1. 推奨部材一覧	10
3	改良圧着張り施工手順	11
	3.2. 使用材料	12
	3.3. 標準工程図	13
	3.4. コンクリート下地の確認・処理	14
	3.5. 下地の吸水調整	14
	3.6. モルタル下地の作製・確認	15
	3.7. タイルの割付け	15
	3.8. タイルの墨出し	16
	3.9. モルタル下地の吸水調整	16
	3.10. タイル張り	16
	3.11. タイルクリップの使用	17
	3.12. 目地詰め・洗い	18
	3.13. 検査	19
4	置き敷き施工手順	21
	4.1. 使用材料	22
	4.2. 標準工程図	23
	4.3. タイルの割付け	24
	4.4. 路床、および路盤の確認・修正	24
	4.5. バサバサモルタルの施工	24
	4.6. タイルの施工	25
	4.7. 目地詰め	25
	4.8. 散水	25
	4.9. 検査	26
	4.10. 置き敷き施工断面図	26
5	注意事項	27
	5.1. 安全衛生について	28
	5.2. 部材保管・納入時の注意	28
	5.3. 維持管理のポイント	29

---

# 1 設計・施工条件

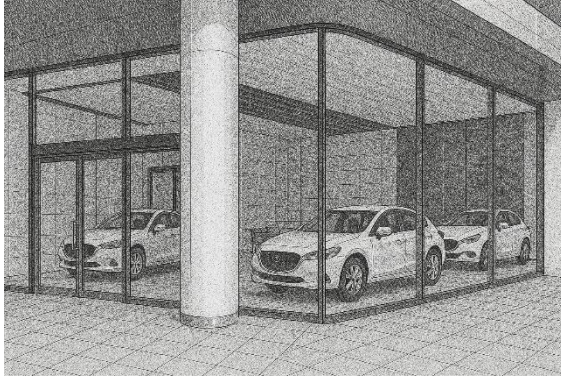
---

# 1 設計・施工条件

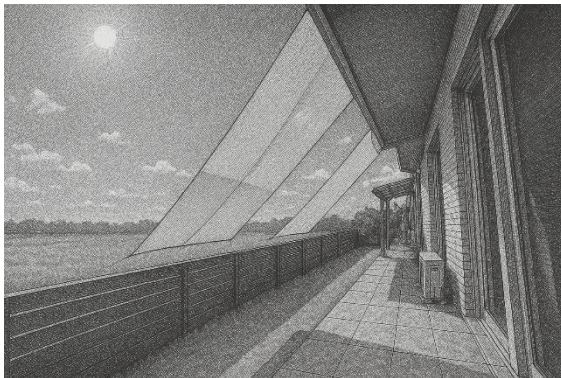
## 1.1. 用途概要

グラン舗石は、高耐久の床材として使用できます。以下に使用参考例を示します。  
本書での施工法は、参考例で使用した場合の手順・注意事項について解説します。

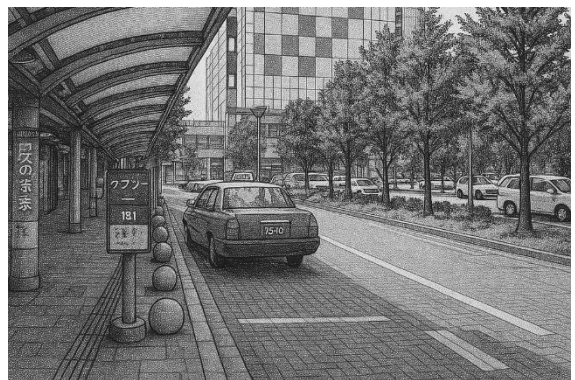
### 1.1.1 建築外構（通常歩行・重歩行・車両乗り入れ）



### 1.1.2 住宅外構（通常歩行・重歩行・車両乗り入れ）



### 1.1.3 ランドスケープ（重歩行・車両乗り入れ）



## 1.2. 適用タイル

製品名	タイル寸法	厚さ	面積	単位重量	タイル重量
گران舗石	100 × 100mm	18mm	100cm <sup>2</sup> 以下	33.0Kg/m <sup>2</sup>	0.5kg/枚以下
	300×300mm	18mm	900cm <sup>2</sup> 以下	39.2Kg/m <sup>2</sup>	3.5kg/枚以下
	900×200mm	18mm	1800cm <sup>2</sup> 以下	39.2Kg/m <sup>2</sup>	7kg/枚以下
	600×300mm	18mm	1800cm <sup>2</sup> 以下	39.2Kg/m <sup>2</sup>	7kg/枚以下
	600×600mm	18mm	3600cm <sup>2</sup> 以下	39.2Kg/m <sup>2</sup>	14kg/枚以下

## 1.3. 適用下地・適用工法

適用下地	適用工法	用途	重歩行 車両乗り入れ※1	通常歩行
コンクリート下地	改良圧着張り	歩道・カーポートなど	○	○
	圧着張り※2	歩道・カーポートなど	○※3	○
路盤	置き敷き	庭への置き敷き	×	○

※1 一般車両が徐行程度の速度で通過可能性のある場所

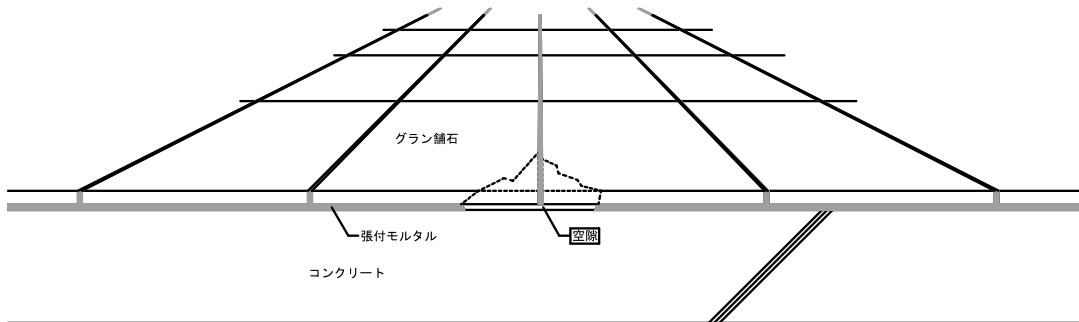
※2 本書では施工法を記載していません。

※3 100 角に適用し、十分なたたき押さえがなされること

# 1. 設計・施工条件

## 1.4. 施工のポイント

タイルは強度が高い部材ですが、タイルと下地の間に空隙があった場合、下地の強度が十分でなかった場合等の施工不良により、タイルの割れや剥離などが起こります。タイルの損傷を防ぐため、本書の施工手順の内容を守り、正しく施工を行ってください。



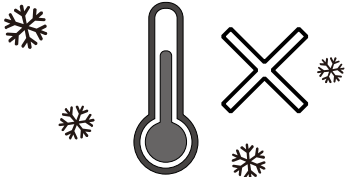
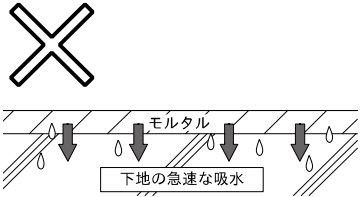
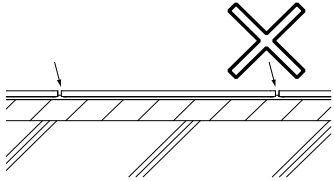
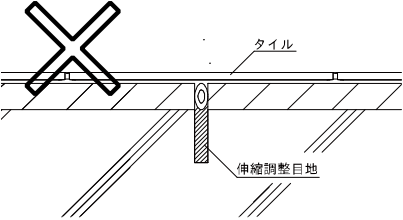
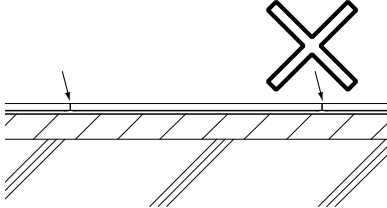
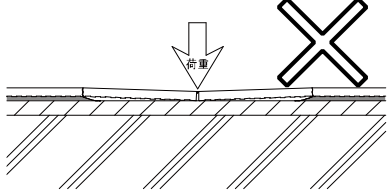

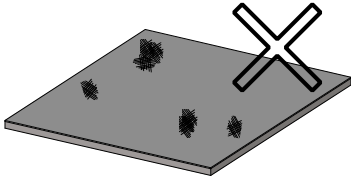
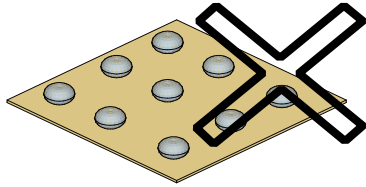
## 1.5. 石材との比較

グラン舗石は、工業製品のため以下の性能を安定して確保できます。外部用規格石材と同等の性能。

項目	品質規格		グラン舗石	花崗岩(御影石)
	厚さ		18mm 厚	13~30mm 厚
	表面仕上げ		グリップ	ジェットバーナー
吸水率	JIS A 5209 JIS A 5003	規格値	3%以下	5%未満
		実測値	0.5%以下	-
モース硬度	-		6~7	6~7

1.6. 禁止事項



<p>低温環境下での施工</p> <p>モルタルの硬化が遅くなり、硬化不良の原因となります。製造業者の注意事項を遵守してください。</p> 	<p>下地の吸水調整を行わない施工</p> <p>ドライアウト現象により、硬化不良の原因となります。</p>  <p>モルタル 下地の急速な吸水</p>	<p>タイルの空目地・深目地施工</p> <p>タイルの端に足が引っかかり、歩行に支障をきたすおそれがあります。</p> 
<p>伸縮調整目地を跨いだタイル施工</p> <p>躯体の収縮・層間変位に追従できなくなり、タイルの割れや剥離、目地割れなどの原因となります。</p>  <p>タイル 伸縮調整目地</p>	<p>適切な目地を設置しないタイルの突付け施工</p> <p>材料の熱膨張収縮や変位によりタイルに応力がかかり、割れ、破損、剥離の原因となります。</p> 	<p>張付け材の充填不足</p> <p>タイルと下地の間に空隙ができ、タイルの割れや剥離などの原因となります。</p>  <p>荷重</p>
<p>指定部材以外の施工</p> <p>性能不足により、重大事故の原因となります。</p>  <p>有機系接着剤</p>	<p>汚れ・レイタンスなど付着物がある下地への施工</p> <p>塵や埃、レイタンスが接着阻害となるため、剥離の原因となります。</p> 	<p>指定塗布方法以外の施工</p> <p>タイルの付着面積が確保できないため、不具合の原因となります。</p> 

---






## 2 構成部材

---

## 2. 構成部材

### 2.1. 推奨部材一覧

名称	タイル張付け材	目地材	クシ目コテ	
品名	プレミックスK3	目地セメント	5mmクシ目コテ	8mmクシ目コテ
形状			 210mm x 70mm	 210mm x 70mm
品番	-	-	KSK5	KSK8
用途	タイル張付け材	目地材	接着剤塗布	接着剤塗布
仕様	既製調合モルタル	既成調合モルタル	ステンレス	ステンレス
メーカー	二瀬窯業(株)	二瀬窯業(株)	(株)アイコットリョーフ	(株)アイコットリョーフ
入数	25kg/袋	25kg/袋	1丁/梱	1丁/梱

名称	タイルクリップ工法部材※1			目地スペーサー	
品名	スペーサークリップ (ロングタイプ)	メタル製ベンチ	クサビ	十字クロススペーサー	T字クロススペーサー
形状					
品番	TT500L-2	FP-1	TK100	KS-3(3mm 目地幅用) KS-5(5mm 目地幅用)	KS-3T(3mm 目地幅用) KS-5T(5mm 目地幅用)
用途	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地・レベル合わせ	タイル目地調整	タイル目地調整
メーカー	(株)アイコットリョーフ	(株)アイコットリョーフ	(株)アイコットリョーフ	(株)アイコットリョーフ	(株)アイコットリョーフ
入数	500個/袋	1本	100個/袋	3mm 目地幅用:200個/袋 5mm 目地幅用:100個/袋	3mm 目地幅用:200個/袋 5mm 目地幅用:100個/袋

※1 タイルクリップ工法部材は、改良圧着張りで施工する場合の推奨部材となります。

---

## 3 改良圧着張り施工手順

---

### 3. 改良圧着張り施工手順

#### 3.2. 使用材料

##### 3.2.1 吸水調整材(吸水調整を吸水調整材で行う場合)

- ・ 日本建築仕上学会 M-101「セメントモルタル塗り用吸水調整材の品質基準」を満たす吸水調整材

日本建築仕上学会 M-101「セメントモルタル塗り用吸水調整材の品質基準」

項 目	品 質
外 観	粗粒子, 異物, 凝固物等がないこと。
全 固 形 分	表示値±1.0%以内
吸 水 性	30 分間で 1g 以下
標 準 状 態	
熱冷繰返し抵抗性	著しくひび割れ及びはく離がなく, 接着強度が 1.0N/mm <sup>2</sup> 以上で, 界面破壊が 50%以下であること。
凍結誘拐抵抗性	
熱アルカリ熔融抵抗性	

##### 3.2.2 下地用モルタル

- ・ JIS A 6916(建築用下地調整塗材)に規定するセメント系下地調整厚塗材 2 種 (CM-2)、または、現場調合モルタル

#### ■ 現場調合モルタルについて

- ・ 現場調合モルタルは、以下項目の品質に適合する材料を使用してください。

項目	品質
セメント	普通ポルトランドセメント※1
砂	JASS 5(鉄筋コンクリート工事)で示している「砂の品質」に適合するもの また、張り付けるタイルの裏足の高さよりも小さい粒径のものを使用する
混和剤	セメント混和用ポリマー※2 および保水剤
水	上水道水

- ・ 材料の調合は、以下表の比率で行ってください。

種類	セメント	砂	混和剤
敷きモルタル	1	3~4	適量
張付けモルタル	1	1~2	適量

※1 JIS R 5210:2009(ポルトランドセメント)に適合するものを使用してください。

※2 JIS A6203:2008(セメント混和用ポリマーディスパージョンおよび再乳化形粉末樹脂)に適合するものを使用してください。

##### 3.2.3 張付け用モルタル

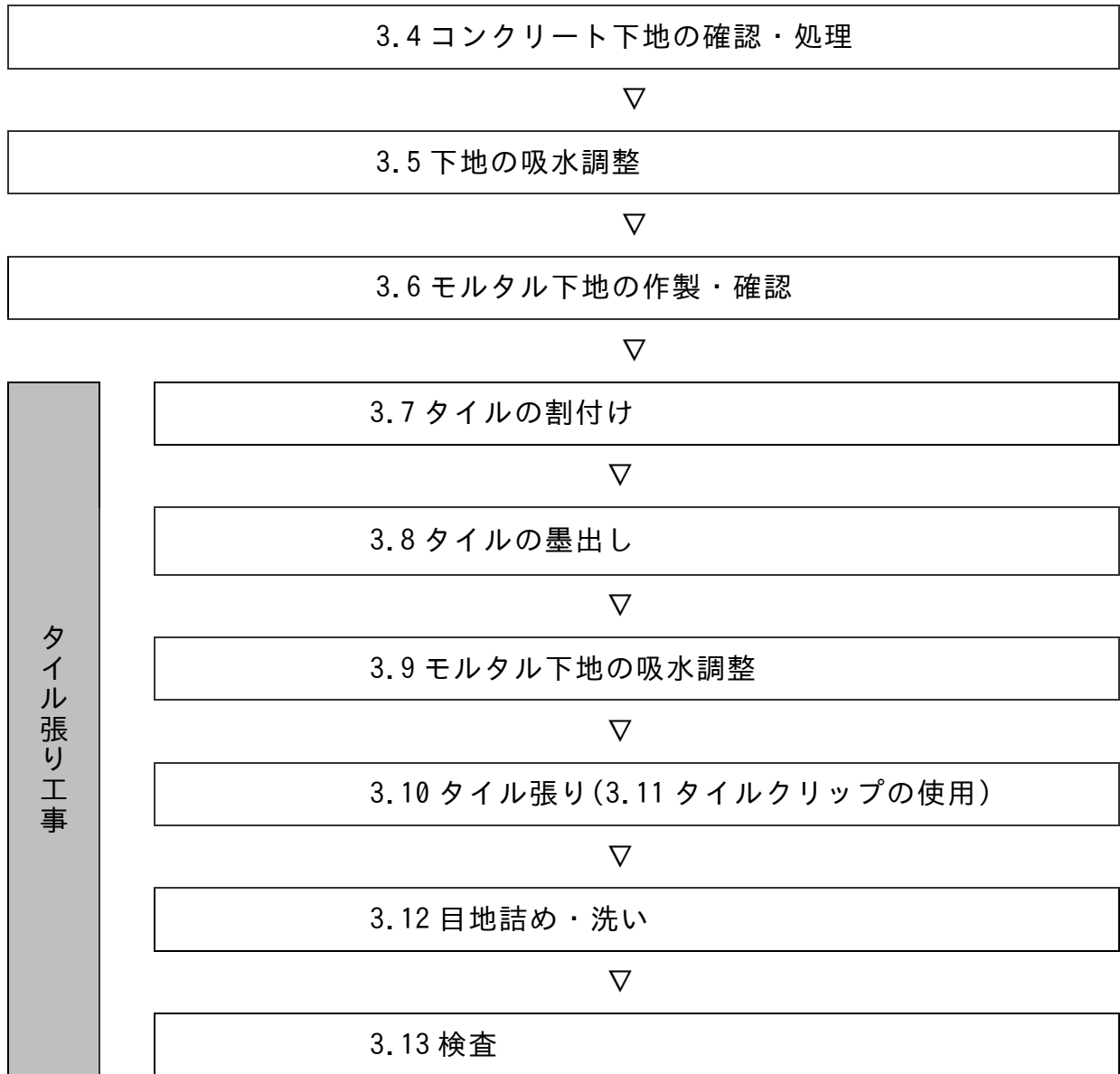
- ・ プレミックス K 3 [二瀬窯業(株)]、または現場調合モルタル
- ・ プレミックス K 3 の混ぜ練りは、メーカー指定の調合で行ってください。
- ・ 現場調合モルタルについては、同ページ「3.2.2 下地用モルタル」を参照してください。

##### 3.2.4 目地材

- ・ 目地セメント [二瀬窯業(株)]

## 3.3. 標準工程図

セメントモルタルによる改良圧着張りの施工手順を以下に示します。

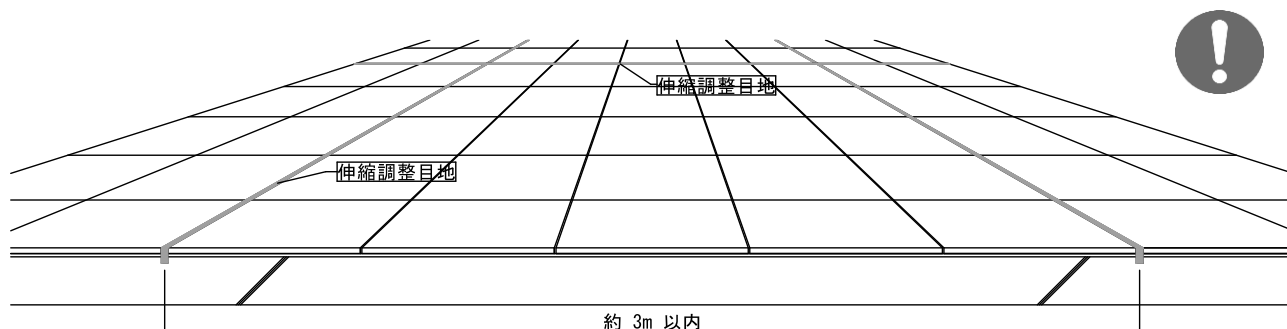


### 3. 改良圧着張り施工手順

#### 3.4. コンクリート下地の確認・処理

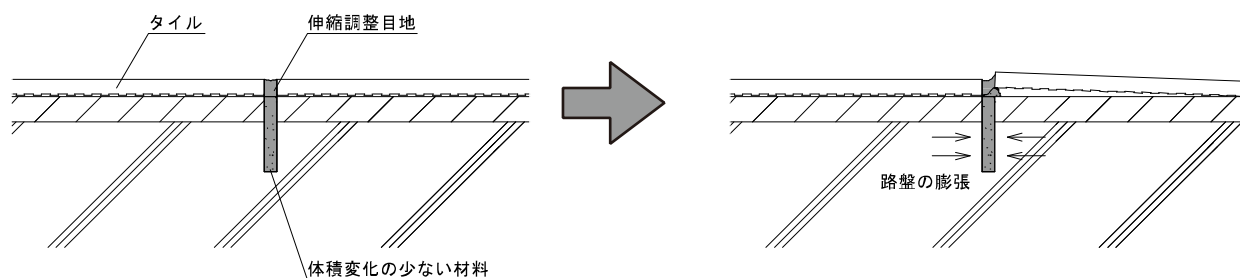
##### 3.4.1 工事

- ・ 現場打ちコンクリートの場合、最低2週間の養生期間をとってください。
- ・ コンクリート下地は、ひび割れ・豆板・過度の凹凸などがなく、適切に補修された状態であることを確認してください。
- ・ コンクリート下地のひび割れ誘発目地およびモルタル下地の伸縮調整目地は、タイル張り面の伸縮調整目地と一致させ、下地の伸縮調整目地にまたがってタイル張りを行わないようにします。
- ・ タイル張り面の伸縮調整目地は、縦・横ともに3m以内ごとに設置し、幅は10mm以上とします。



##### 3.4.2 ポイント

- ・ 伸縮調整目地材には、発泡材料等の体積変化のある材料を使用してください。体積変化の少ないアスファルト系等の材料を用いると、路盤の膨張により目地部が圧縮されてせり上がり、隣のタイルを押し上げて剥離するおそれがあります。



#### 3.5. 下地の吸水調整

##### 3.5.1 工事

- ・ コンクリート下地にモルタルを塗り付けると、モルタルに含まれる水分が急激にコンクリート下地に吸水され(=ドライアウト現象)、硬化不良の原因となりますので吸水調整を行います。
- ・ 吸水調整は、下地に吸水調整材を塗布する、又は水湿しを行います。
- ・ 吸水調整材を使用する場合は、吸水調整材の希釈倍率と塗布量を守って施工してください。
- ・ 吸水調整材は、だれ・塗り残しのないように均一に塗りつけてください。

## 3.6. モルタル下地の作製・確認

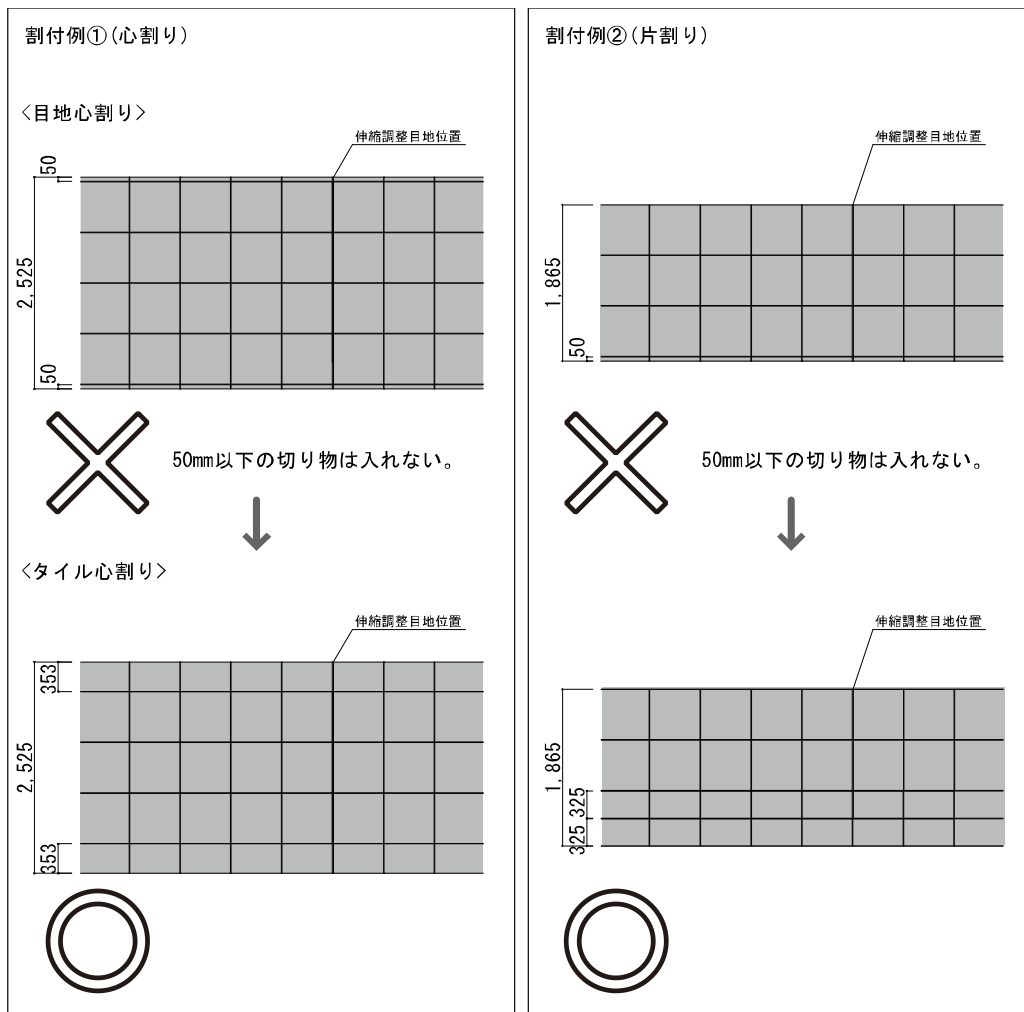
## 3.6.1 工事

- ・ タイルの仕上り精度は、下地の精度の影響を受けるため、モルタル下地を作製します。
- ・ モルタル下地の塗り厚は 30mm 以下としてください。
- ・ モルタル下地は、モルタルの硬化不良・はく離・ひび割れなどが無いかを確認し、汚れやレイタンスなど接着上有害な付着物が無い状態にしてください。
- ・ モルタル下地面の仕上げは、原則として木ごて押えで施工してください。

## 3.7. タイルの割付け

## 3.7.1 工事

- ・ 他の仕上げ材との取り合いの位置等に注意して 50mm 以下の小さな切り物が入らないように割付けてください。
- ・ 異なる寸法の張り合わせをする場合には、十分な割付け検討を行い、当事者間で取り決めることとしてください。
- ・ タイルの目地幅は適正に設定し、突付け目地としないでください。
- ・ 以下の 600 角割付例を参考としてください。



## 3. 改良圧着張り施工手順

### 3.8. タイルの墨出し

#### 3.8.1 工事

- ・ タイルの割付けに従って、墨出しを行ってください。

### 3.9. モルタル下地の吸水調整

#### 3.9.1 工事

- ・ P.14「3.5 下地の吸水調整」を参照して行ってください。

### 3.10. タイル張り

#### 3.10.1 工事

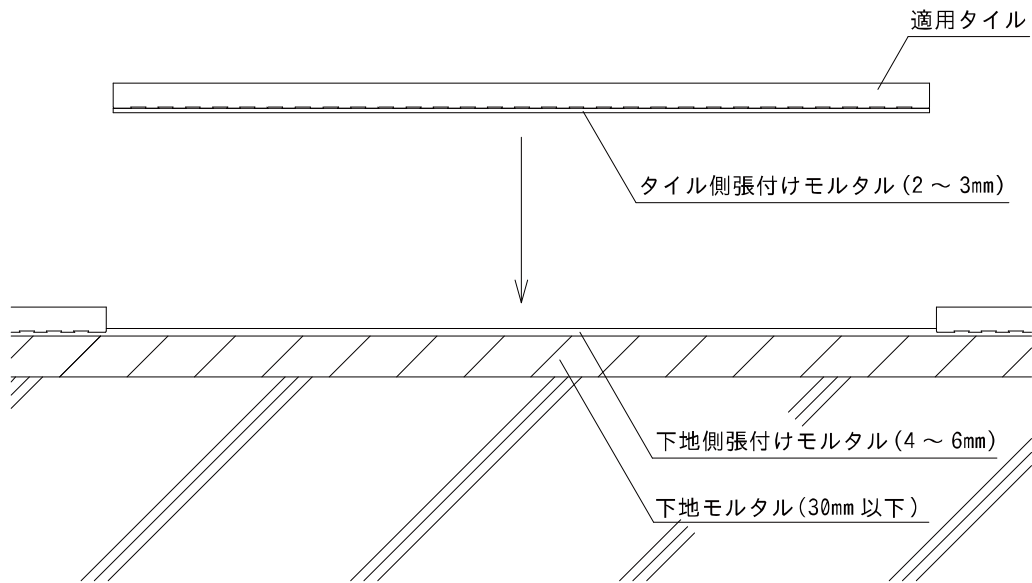
改良圧着張りの工程を、以下に示します。

手順	内容
① 混練り	・ 張付けモルタルの混練りはハンドミキサーによる機械練りで行います。
② しごき塗り (下擦り)	・ 張付けモルタルは必ず二度塗りとします。一度目のモルタル塗りは、下地面への付着率が良くなるように、コテ圧をかけてしごくように塗り付けます。
③ 上塗り	・ 下地面に塗り付けるモルタルの塗り厚は4～6mmとします。 ・ 1回の塗付け面積は、2㎡/人以内を目安とします。
④ タイル裏面への モルタル塗り	・ タイル裏面に塗り付けるモルタルの塗り厚は2～3mmとし、コテ圧をかけてタイル裏面全体にモルタルが充填するように塗り付けます。
⑤ タイルの張付け	・ タイル裏面へのモルタル塗りは作り置きとせず、直ちに張付けてください。張付けたタイルはゴムハンマーやヴィブラートをを用いて十分に押さえ込みます。
⑥ 目地直し	・ 目地直しは、張付けモルタルが硬化する前に行います。目地直しを行ったタイルは、再度たたき押えます。
⑦ 目地部の清掃	・ タイル張り終了後、張付けモルタルが硬化し、タイル位置がずれない程度になった時を見計らって、目地部の清掃を行います。

#### 3.10.2 ポイント

- ・ 張付けモルタルの塗り厚が大きいと、モルタルの収縮によってタイルが剥離するおそれがあります。正しい塗り厚で施工してください。

## 3.10.3 改良圧着張り断面図



## 3.11. タイルクリップの使用

- ・ タイルクリップは、タイル間の高さ、目地幅を調整する施工補助具です。タイル張りの際に使用することで、施工時間の短縮につながります。

## 3.11.1 材料

スペースクリップ(ロングタイプ) TT500L-2 ※1  
 クサビ TK100  
 メタル製ペンチ FP-1  
 十字クロススペーサー KS-3, KS-5  
 T字クロススペーサー KS-3T, KS-5T

※1 ロングタイプは、タイルの厚さ 最大 23 mm～最少 13 mmまで対応可能です。

## 3.11.2 スペースクリップの必要数

- ・ スペースクリップの必要数については、以下をご参考ください。

タイルサイズ	1㎡当たり必要
600×300	22 個
600 角	11 個

### 3. 改良圧着張り施工手順

#### 3.11.3 工事

施工手順を以下に示します。

順番	写真	手順内容
①		<ul style="list-style-type: none"><li>・ タイルを置いた後、スペーサークリップをタイルの下に差し込みます。</li></ul>
②		<ul style="list-style-type: none"><li>・ クサビをスペーサークリップに差し込みます。</li></ul>
③		<ul style="list-style-type: none"><li>・ ペンチでクサビをきつく締めます。</li></ul>
④		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 接着剤硬化後に、靴又はゴムハンマー等でクサビとスペーサークリップの突起部を除去します。</li><li>・ 必ず目地方向に沿って除去してください。</li></ul>

#### 3.12. 目地詰め・洗い

##### 3.12.1 施工前の確認

- ・ タイル張付け後、少なくとも1日以上が経過し、タイルが動かないことを確認した後、目地詰めを行ってください。

##### 3.12.2 材料の混練

- ・ 製造業者が指定する割合で目地材と水を混練します。
- ・ 目地セメントの場合は、1袋(25kg)に対し水道水を5.5ℓの割合で、ハンドミキサー等を使用して練り残しの無いように十分に混練りしてください。練り混ぜた材料は60分以内にご使用ください。
- ・ ひび割れや強度不足、色むら等の原因となりますので、練水量は厳守してください。
- ・ 強度発現や防水性に支障をきたし、所定の性能を発揮できないおそれがありますので、水を加えて練り直しをしないでください。

### 3.12.3 水湿し

- ・ 下地が乾燥している場合や吸水が激しい場合は、硬化不良防止のために適度な水湿しを行ってください。

### 3.12.4 目地詰め

- ・ 歩行の支障にならないように、平目地または 1～2mm 程度の沈み目地とします。
- ・ 目地詰めは、ゴムごてを用いた塗目地で行ってください。
- ・ 目地材の締まりを見計らって目地ごてを用いて所定の深さにこぼ切りし、入念にコテ押えを行ってください。（目地幅 5mm 以下の場合はコテ押えの省略可）
- ・ 目地詰め後、タイル面の清掃を行ってください。乾燥具合を見計らい、スポンジに一度水を含ませて水が出なくなるまで固く絞り、タイル表面を一度荒拭きして汚れを柔らかく戻してください。
- ・ スポンジのきれいな面で目地の通りに対して斜めに拭き取ってください。
- ・ 汚れたスポンジは水洗いを行って固く絞り、汚れの拭き取りを繰り返します。
- ・ 拭き取り後に目地表面に浮き水が残っていると色むらの原因になります。拭き取り時のスポンジの水分に注意し、浮き水が残らないようにしてください。
- ・ 場所によって拭き取るタイミングに差が出ると、色むらの恐れがありますのでご注意ください。
- ・ モルタルによる汚れがはなはだしいときは、監理者の承認を得てから、業用塩酸 30 倍希釈液を用いて酸洗いを行ってください。

### 3.12.5 養生

- ・ 直射日光、雨、雪、強風にさらされないようシート掛け等によって養生してください。
- ・ 製造業者が指定する養生期間を厳守して行ってください。

## 3.13. 検査

### 3.13.1 工事

- ・ 施工によるタイルの割れ、欠け、汚れなどの欠点の有無について検査してください。
- ・ 清掃およびタイル面洗いについては、P.18「3.12 目地詰め・洗い」をご参照ください。
- ・ 施工による不陸や段差の程度について検査してください。
- ・ 目地は引き通しよく、目違いがなく、目地幅や目地深さが均一であるか、また著しい目地切れがないか検査してください。
- ・ 割付図・立面図・イメージパースなどがあれば照合し、外観検査を行い引き渡します。



---

## 4 置き敷き施工手順

---

## 4. 置き敷き施工手順

### 4.1. 使用材料

#### 4.1.1 路盤材

- ・ クラッシュラン (C30 または RC30)

#### 4.1.2 バサバサモルタル

- ・ バサバサモルタルは、以下項目の品質に適合する材料を使用してください。

項目	品質
セメント	普通ポルトランドセメント
砂	JASS 5(鉄筋コンクリート工事)で示している「砂の品質」に適合するもの また、張り付けるタイルの裏足の高さよりも小さい粒径のものを使用する

材料の調合は、以下表の比率で行ってください。

種類	セメント	砂
バサバサ モルタル	1	3~6

※1 JIS R 5210:2009(ポルトランドセメント) に適合するものを使用してください。

#### 4.1.3 目地砂

- ・ 粒径 2.36mm 以下かつ、0.075mm ふるい通過分が 10% 以下の砂

## 4.2. 標準工程図

置き敷き施工による施行手順を以下に示します。

4.3 タイルの割付け



4.4 路床、および路盤の確認・修正



4.5 バサバサモルタルの施工



4.6 タイルの施工



4.7 目地詰め



4.8 散水



4.9 検査

## 4. 置き敷き施工手順

### 4.3. タイルの割付け

#### 4.3.1 工事

- ・ P.15「3.7 タイルの割付け」を参照して行ってください。

### 4.4. 路床、および路盤の確認・修正

#### 4.4.1 路床の確認

- ・ 路床面が正しい仕上り高さであり、かつ設計の際に計画した支持力を均一に仕上げられているかどうかを水系やメジャー等で確認します。
- ・ 路床面に異常を発見した際は、路床材と同程度の品質を満足する材料を補足して、十分に締め固めます。

#### 4.4.2 路盤材の敷き均し・締め

- ・ 路床面の上に路盤材を敷き、材料が分離しないように均一に敷き均します。
- ・ 敷き均した後、転圧機(プレートコンパクター)などの機械を用いて締め固めます。その際、路床の支持力を考慮して路床を乱さないように施工してください。

#### 4.4.3 路盤面の確認

- ・ 路床面と同様に、路盤面の仕上り高さや支持力の均一性を、水系やメジャー等で確認します。
- ・ 路床面に異常を発見した際は、路床材と同程度の品質を満足する材料を補足して、十分に締め固めます。

### 4.5. バサバサモルタルの施工

#### 4.5.1 材料の混練

- ・ セメントと砂を 1 : 3~1 : 6(容積比)の割合で混合します。
- ・ 現場で混合する場合は、手練りまたは小型ミキサーを用いてよく混ぜ合わせてください。

#### 4.5.2 バサバサモルタルの敷設

- ・ 路盤面の上にバサバサモルタルを厚さ 30mm 程度敷き込み、木ごてや板などを用いて均一に均します。
- ・ この段階では締め固めは行わず、目視で水平であることを確認してください。

### 4.6. タイルの施工

#### 4.6.1 タイルの敷設

- ・ バサバサモルタルの上に、目地間隔を空けながらタイルを敷き詰めていきます。
- ・ 敷いた後にタイルが動かないように、軽く押さえながら敷き詰めます。

#### 4.6.2 不陸調整

- ・ ゴムハンマー等を用いてタイルを叩き、タイル層の不陸を均一にします。
- ・ 叩きすぎに注意し、全体を見ながら微調整を繰り返します。

### 4.7. 目地詰め

#### 4.7.1 工事

目地砂による目地詰めは以下の手順で行います。

- ① タイル表面に目地砂を均一に撒きます。
- ② ほうきやデッキブラシなどで敷設面を掃くようにして砂を目地に擦り込みます。
- ③ 転圧機(コンパクター)により振動をかけ、目地砂を充填します。
- ④ 目地に砂が充填されるまで、①～③の作業を繰り返し行います。

### 4.8. 散水

#### 4.8.1 工事

- ・ タイル表面に水を撒き、表面に残った目地砂を洗い流します。
- ・ 目地に充填された砂まで流れ出ないように、水圧に注意してください。
- ・ この作業により、目地砂やバサバサモルタルを締め固まり、タイルが固定されます。

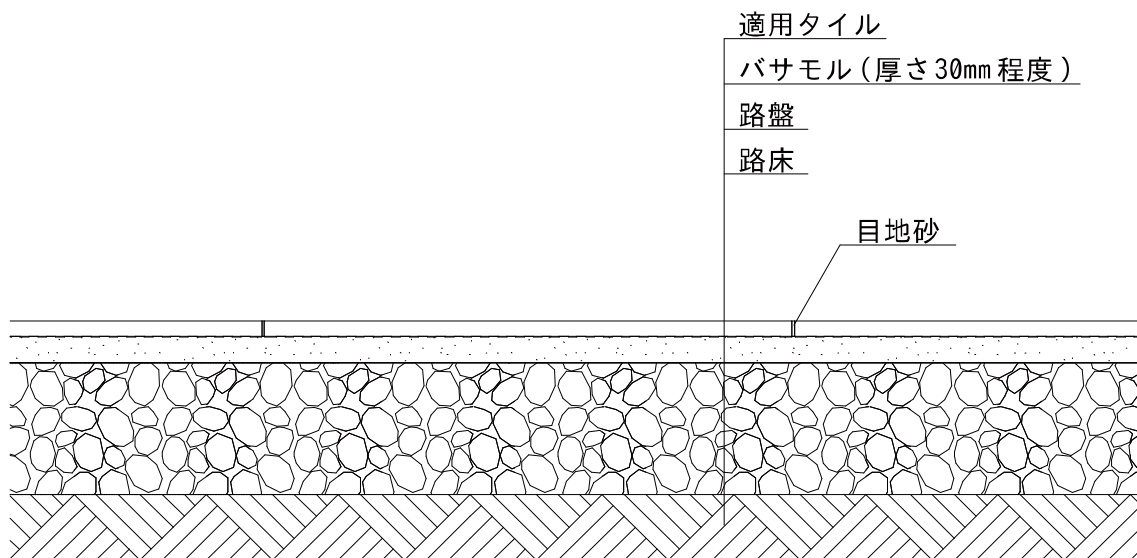
## 4. 置き敷き施工手順

### 4.9. 検査

#### 4.9.1 工事

- ・ 施工によるタイルの割れ、欠け、汚れなどの欠点の有無について検査してください。
- ・ 施工による不陸や段差の程度について検査してください。
- ・ 目地は引き通しよく、目違いがなく、目地幅が均一であるか、また目地砂が十分に充填されているか検査してください。
- ・ 割付図・立面図・イメージパースなどがあれば照合し、外観検査を行い引き渡します。

### 4.10. 置き敷き施工断面図



---

## 5 注意事項

---

## 5. 注意事項

### 5.1. 安全衛生について

#### 5.1.1 安全衛生心得

- ・ 安全第一に徹すること
- ・ 作業服は上下共に正しく着用すること
- ・ 作業場の整理整頓を行うこと
- ・ 作業者相互の安全確認を十分行うこと
- ・ 健康状態を十分確認すること
- ・ 電動工具、空気圧工具の安全性チェックを行うこと



#### 5.1.2 安全衛生規則

- ・ 安全ヘルメット（墜落保護用）を着用すること。（労働安全衛生規則第 539 条）
- ・ 滑りやすい履物を使用しないこと。（建設業労働災害防止規定第 25 条）
- ・ 墜落の恐れがあるときは、安全帯を着用すること。（労働安全衛生規則第 520 条）
- ・ 足場の安全性を確認すること。
- ・ 切断作業の際、長時間多量の粉塵を吸引すると健康を損なう恐れがあります。集塵装置付カッター並びに局所排気装置、防塵マスクの着用、うがい手洗いの励行、切断片の安全な処分等に留意してください。

### 5.2. 部材保管・納入時の注意

#### 5.2.1 現場保管

- ・ なるべく施工場所の近い安全な所を選んでください。
- ・ 風雨による破損・汚れを避けるため、またモルタルの劣化・変質を避けるため、屋内で保管してください。やむを得ず屋外に保管する場合は、防水性のあるシートで覆い、シートが飛ばないように養生してください。
- ・ 破損を避けるため、直接地面に置かないでください。
- ・ セメント製品は、製造業者の注意事項を遵守し、適切な方法で保管してください。

#### 5.2.2 取り扱い

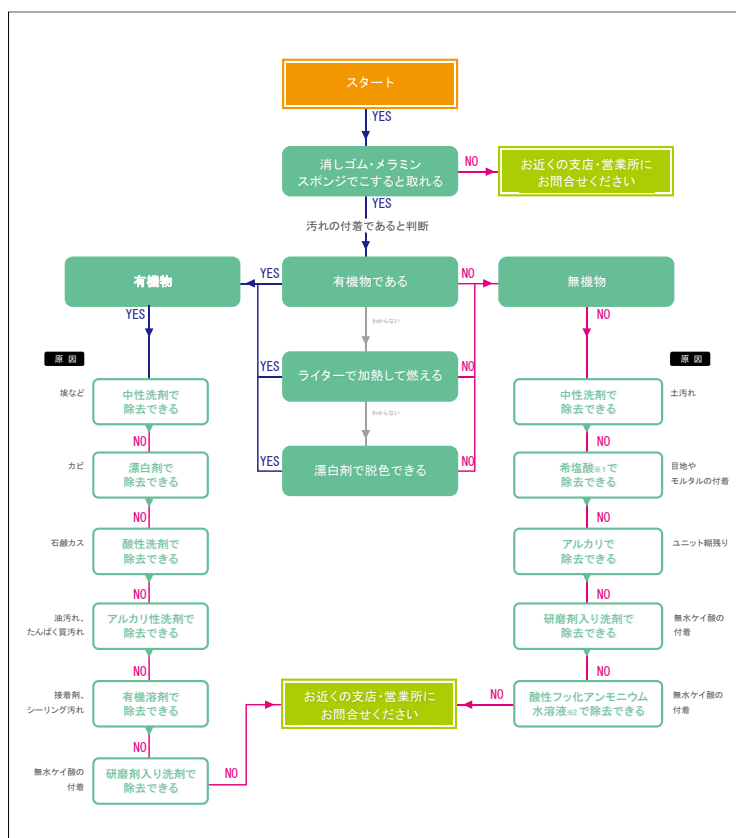
- ・ 製品梱包に衝撃を与えないようにしてください。
- ・ 汚れた手で触らないようにしてください。
- ・ 乱袋、水濡れ、油濡れしたものは使用しないでください。
- ・ カッターナイフ等で開封する際は、製品を傷つけないよう注意してください。

5.3. 維持管理のポイント

5.3.1 メンテナンス方法

- ・ ご使用中の環境や他部材からのもらい汚れなどで、タイル表面の汚れが目立つ場合があります。下図「汚れ除去フロー」に従って、適切な処置を行ってください。
- ・ 洗剤や薬剤を使用する場合は、それぞれの取扱説明書に従って正しく使用してください。また、必要に応じて保護具（眼鏡、マスク、ゴム手袋など）を着用してください。
- ・ 洗浄は、目立たないところで効果を確認し、実施してください。
- ・ 希塩酸やシュウ酸、強酸性洗剤と塩素系漂白剤やカビ取剤などを混ぜると、塩素ガスが発生する場合がありますので、同時に使用しないで下さい。
- ・ 強酸洗剤や希塩酸を使用する場合は、金属製品が錆びたり目地部が侵される恐れがあるので、洗剤がかからないよう注意してください。
- ・ 漂白剤や有機溶剤を使用する場合は、十分換気してください。
- ・ 洗浄後は、十分水洗いを行い、洗浄剤が残らないようにしてください。

【汚れ除去フロー】



5.3.2 点検時期

- ・ 完工後 3 年後を初回の目安とし、それ以後も 1 年ごと程度で点検を行ってください。
- ・ 地震・台風などの後には、その都度点検を行ってください。